

札幌市環境プラザ運営協議会 平成29年度第1回実施概要

- 1 日時 平成29年5月18日(木) 19:00~21:00
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
 - (1) 委員：伊井委員、鎌田委員、鈴木委員、高橋委員、山本委員、早坂委員、寺田委員
 - (2) 札幌市：環境局環境計画課 環境教育担当係長、計画係担当
 - (3) 事務局：(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 札幌市環境局 あいさつ
- (3) 運営協議会について
- (4) 委員自己紹介
- (5) 議事 平成28年度報告、平成29年度計画、展示コーナー展示物更新について
- (6) 札幌エルプラザ公共4施設館長 あいさつ
- (7) 閉会

5 議事概要

- (1) 平成28年度報告 事務局より平成28年度事業の報告を行った。

ア 環境情報の収集・提供業務

イ 環境保全活動、交流の支援と推進業務

Q 評価の部分で評価軸として挙げているものはどのようなプロセスの中でできたものか。

A (事務局)

指定管理者制度の中の仕様書に記載されている業務を項目に分けた。できているもの、長期的な視点でなければできないものがあり、できていない部分は今後の課題として示した。

Q 現場を見ている環境プラザ職員の中で、優先順位が高いと考える課題や、仕様書にはないが一つの事業から生まれるであろう成果など、仕様書にかかわらない評価軸の在り方を考えているか。

A 深い議論には至っていない。小学生に関しては授業をとおした関わり、放課後のアプローチといったもの、また、一般の方においても環境活動をしている方と、環境に関心のない方へのアプローチなどさまざまな軸があり、対象ごとに事業展開、評価をしていく視点もあると考えている。

【今後に向けてのご意見】

- ・数字の評価だけではなく、「ゆるカフェ」の事業のように、これまでアプローチできていなかった環境に関心のない方たちに向けた事業を1件でも行ったのは成果。次年度に向けてそういった視点を入れていくことを願う。
- ・学校を対象とした事業において、環境学習で環境プラザを利用する際に、前後の活動の在り方も含めた提案や、パッケージングの在り方を今後検討、紹介していくとよいのではないか。

- ・新学習指導要領に「持続可能な社会」というものがある。その流れにのる方法を検討してはどうか。
- ・緩やかなつながり、強いつながりといったつながりの強弱をどう意識していくのかを、今後の検討課題としていただきたい。

ウ 環境教育・学習の推進業務

エ 普及啓発企画業務

オ 札幌市環境プラザ運営協議会運営業務

カ その他の業務

Q 学校現場に即したアプローチを検討していくとあるが、授業の中で使えるという意味合いか。

A 環境教育リーダー制度を活用するために、主催者主導の活動の中でスポット的にリーダーに依頼するという形が理想であるが、全てリーダーにお任せ、という具合に渡されるケースが多い。先生方と専門家が一緒に授業を作っていくにはどうしたらよいか。先生方の声をお聞きしながらアプローチの仕方を考えたい。

Q 「カ その他の業務」の報告の中に、消費者協会との連携で持続可能な社会を見据え分野をこえた協力、とあるがどれに関することを指しているのか。

A 「環境報告書展」の中の「ミニトーク」が該当する。消費者センターを担う消費者協会も類似の事業を展開している中で、分野を超えた交流を実現できた。企業、消費者、環境にかかわる方、3者が環境コミュニケーションを学ぶ企画となった。

Q 達成できていない課題として、環境団体との連携で全市的な取り組みが生まれることがあげられているが、具体的にどういったことを目指しているのか。

A たとえば親子の自然体験のニーズは非常に高いと思っている。環境プラザでは親子向けの自然体験事業を実施しているが、ほかに子どもが指定管理を受けている野外施設での事業や、環境団体が児童会館で行っている親子向けの事業などがある。こういった事業は幼児を中心としながらも結果として保護者に直接環境のことをお伝えする機会になっている。親子向けの取り組みをつないでいくことで全市的な動きになっていくことが、今見えている中で一番の近道と考えている。

【今後に向けてのご意見】

- ・環境プラザが主催して何かをやることより、指導者向けの活動をすることが環境教育の広がりになるので、そうした事業を続けてほしい。
- ・いろいろな視点からの講座を行うと、環境に関心のない方にも伝える機会となる。
- ・環境関連団体や教育現場だけではなく、いろいろな環境の中にいる生活者（消費者）への取り組みも広げてほしい。
- ・学校の学習内容にあわせた事業を提案していくためには、学校の先生にお聞きしながらニーズ把握をしていくと、数年後には的を射たものになっていくであろう。
- ・環境教育リーダー派遣や企業の出前講座などを、学校の教科や児童活動と絡めて紹介していくと学校側は活用しやすくなる。
- ・エルプラザ4施設の各分野はまさに総合的な学習の分野。ここに来るだけで総合的な学習が成り

立つ可能性も秘めているのではないか。

(2) 平成 29 年度計画 事務局より平成 29 年度事業計画を説明した。

【今後に向けてのご意見】

- ・（環境プラザ以外のエルプラザの施設の活用を含め、学校の授業として多種多様なものが入ってくると子どもたちは混乱するか、という質問を受けて）エルプラザ 4 施設自体は、総合的な学習の時間に適していると思うが、小学校の総合的な学習の時間のカリキュラムでは一つのテーマに取り組む時期を区切っていることが多いため、テーマの枠を超えたものを扱うのは現実的ではない。
- ・高校や大学の学習においては、札幌エルプラザ公共 4 施設は環境と消費、環境保全に対して男女の参画を行う市民団体、それをサポートするサポートセンターがあるなど、学びの場になるのではないか。

(3) 展示コーナー 展示物更新について 札幌市より展示更新について説明を行った。

【ご意見】

- ・大きなハードのものではなく、ソフト面で実際にかかわる職員が自分で作れるような展示の方が来館者はおもしろいのではないか。
- ・環境プラザで行っている環境教育活動の紹介や、協力団体がパネル展のような形で展示し、更新していくとおもしろい。
- ・ワークショップを行った方たちに、プロポーザルで業者に示す際の情報に過不足がないかを、見ていただく機会が必要であろう。
- ・プロポーザルで決まった業者が環境プラザとの意見交換の中で、具体的なことを決めていく会議体を設置して進めていくことを願う。